

麻酔科	
診療科目：麻酔科	
診療科担当研修責任者名： 馬場 洋（麻酔科診療科長）	
診療科連絡先担当者名： 古谷 健太（麻酔科エデュケーション・マネージャー） 倉部 美起（麻酔科総括医長）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：5人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
麻酔科専門医21人（機構専門医含む）、心臓血管麻酔専門医5人、ペインクリニック専門医4人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
麻酔科指導医9人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
麻酔科は1963年に開設された比較的新しい診療科である。手術数の増加およびハイリスク症例の増加と共に、その必要性も増している。新潟大学医学総合病院には15の手術室があるが、麻酔科が管理する年間症例数は5,000件以上に達し、年々増加傾向にある。麻酔科管理症例の幅は広く、新生児から超高齢者まで、リスクの低い症例から生命の危機が迫る症例まで、予定手術から超緊急手術まで、様々な症例に対する手術の麻酔・疼痛管理を行っている。その中には臓器移植の麻酔、心臓大血管手術の麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔などの高度な専門性を要する麻酔管理も含まれる。また、患者の術前状態を把握するため、麻酔科術前外来で麻酔科管理全症例の診察を行っている。さらに、ペインクリニック外来では帯状疱疹後神経痛、複合性局所疼痛症候群などの難治性疼痛患者の診察・治療を行っているほか、手掌多汗症に対する胸部交感神経管切除術、脊髄刺激電極植え込み術などの手術治療も行っている。	麻酔科は、特定の治療臓器を持たない点が特色である。言い換えれば、全身管理が仕事の一つである。当科研修では、術前評価、麻酔計画、術中術後管理を通して、周術期管理に触れてもらう。術前診察を通して、術前検査とその意義、術前合併症の評価法、術前中止薬などについて学ぶ。次に術前評価に基づき、適切な麻酔法・麻酔薬を選択するとともに、各種麻酔薬や筋弛緩薬、循環作動薬の知識を身につける。術中管理では、気道確保法（マスク換気、気管挿管、声門上器具など）や血管確保など、初療や急変対応に必須の知識や技術を身につける。術中の呼吸循環管理を通して、呼吸・循環生理、薬物動態、輸液管理法や、各バイタルサインとそこから得られる情報の意義についても学ぶ。これに加え、個々の進捗に応じて、中心静脈カテーテル挿入、脊髄くも膜下麻酔などの手技や、特殊症例の麻酔も経験することが可能である。術後診察を介して痛みの評価法や術後痛管理について研修する。以上のことを個々の指導医たちとマンツーマンで行い、全身管理に必要な基本的手技や考え方を身につけることを目標とする。